



広報

しんち

号外

昭和46年度 一般会計 決算特集号

財政状況の

公表にあたって

町長 橋本 正一

このほど昭和四十六年度の決算がまとまりましたが、これは、昨年一年間の町民のみなさまの福祉を追求してやまなかつた努力の記録向上に全力をあげた記録ともいふべきものです。

昨年度の国の予算は、総合予算主義をとり、経済成長率の範囲内で編成されましたが、ドルショックと、それに引続く円の切上げ問題による景気の停滞が大きく影響しています。

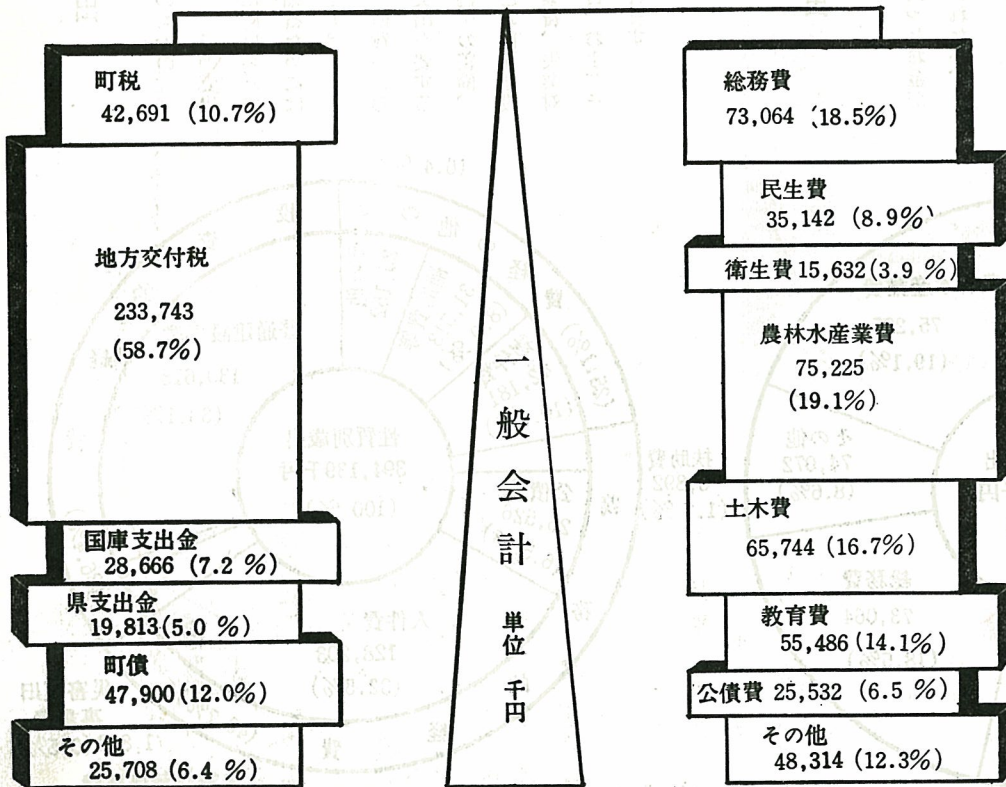
このような情勢の中で、町の財政は決して、容易ではありませんでしたが、みなさんの町政に対する要望を適確にとらえ、「住みよく健康のあふれる町」「産業の豊かな町」「文化と知性の輝く町」の理想郷実現をめざして、町民の福祉向上に直結した各種の施策を積極的に行いながら、税収入を始めとする自主財源の確保とあいまつて、消費的経費の節減を図るとともに、財源を効率的重点的に配分することにより健全財政を維持することができました。

昭和四十六年度に行ったおもな事業はつぎのとおりです。

1. 農業後継者センター建設事業
2. 町道菅谷今神線改良事業
3. 町営住宅用地先行取得事業
4. 町営住宅建設事業
5. 福田小学校屋内体操場建設
6. 釣師浜漁港修築事業
7. 新地区農免道路調査事業
8. 新地区たん水防除事業
9. 南菅谷福田線道路橋梁改良事業
10. 観光駐車場整備事業
11. 菅ノ沢・沼ノ沢溜池改良事業
12. 広域消防分署建設事業
13. 工業用地先行取得事業
14. 駒ヶ嶺保育所プール建設事業
15. 鴻ノ巣溜池改良調査事業
16. 飯桶地区公園造林事業
17. 建設機械購入事業(シヨベルローダー)

一般会計

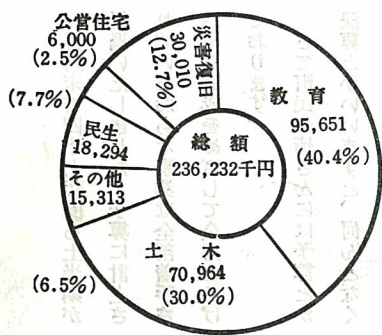
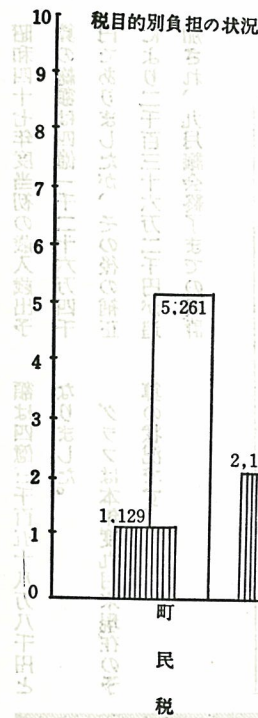
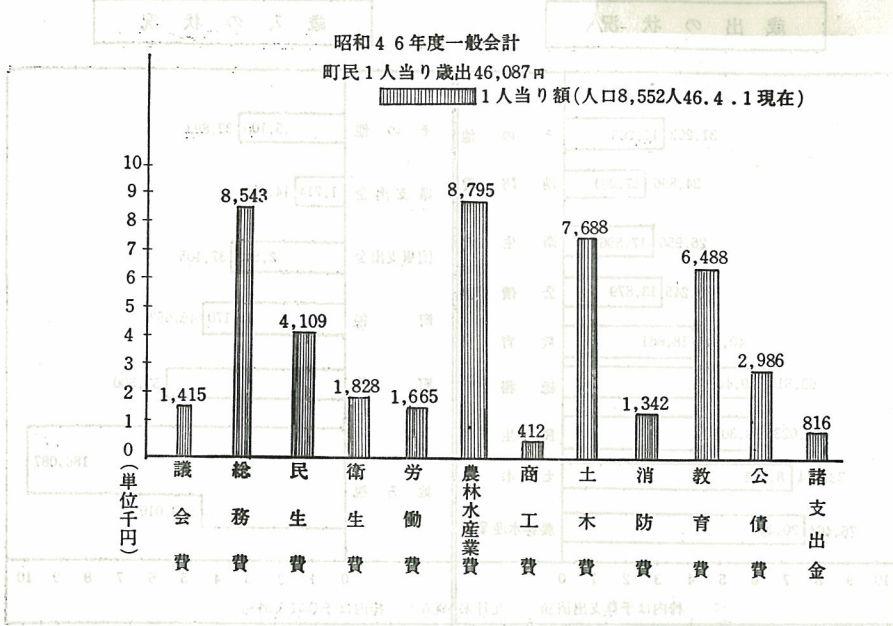
歳入 3億9千8百52万1千円
歳出 3億9千4百13万9千円



昭和四十六年度において、町民の皆さんが納めた町税についてみますと、一世帯当り、二万五千五百八十六円、一人当り四千六百三十二円となっております。

町税負担の状況

なお、納税成績は現年度分九十九、六パーセントとなっております。



二年度以上にまたがる町の借り入れ金を町債といえます。この金は道路や橋梁の整備、学校、公営住宅など大規模な建設事業に多額の経費を要する場合、その財源として借り入れるもので、一定の制約のもとに認められております。これらの返済は歳出面で見ると公債費という名で支払われ、その負担を後年度の住民にも負担させあるいは将来の収益によって支払うことが適当であると認められる場合などに効果的に活用されます。つぎのグラフは昭和四十六年度末現在の町債の現在高です。

町の財産

町の公有財産は庁舎、学校、町営住宅のように、直接行政の用に供されている行政財産と、これ以外の財産、すなわち普通財産とに大別されます。これらの財産は直接、あるいは間接的に町民の

町有財産表(昭和四十七年九月十五日現在)

区分	数量	区分	数量
1 土地	22,141.95㎡	7 普通乗用車	3台
2 建物(建面積)	15,650.45㎡	ライトバン	3台
3 山林	124.67ha	軽ライトバン	1台
4 土地開発基金	18,803㎡	大型ダンプ	1台
現金	1,380,100円	小型ダンプ	1台
5 有価証券	1,208,000円	マイクロバス	1台
その他		モーターグレーダー	1台
6 積立金	3,181,463円	ショベルローダー	1台
7 自動車及び建設機械等		ブルドーザー	1台
		消防ポンプ自動車	3台
		小型動力ポンプ	17台
		8 貸付牛	
		乳牛	3頭
		肉用牛	2頭

性質別歳出

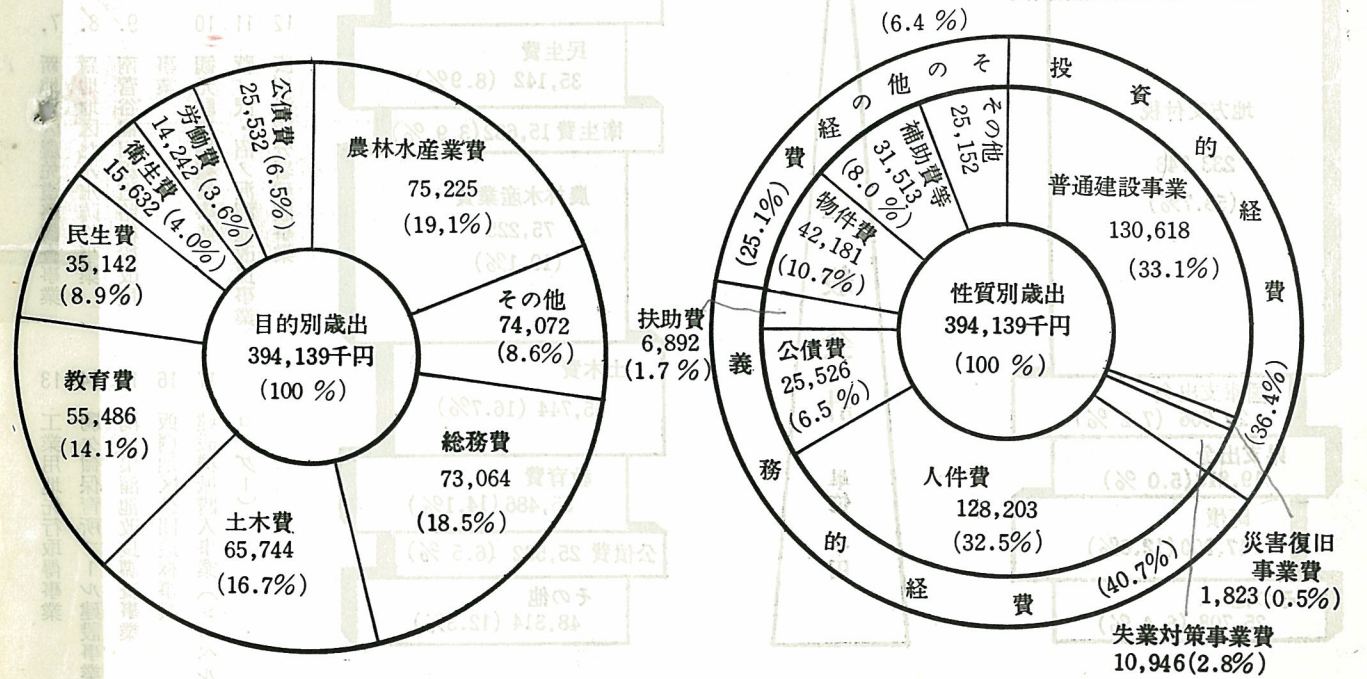
これは支出経過そのものの性格によって分けるもので、その支出がどのような使い途に向けられているかということを知るためにはたいせつな分けかたです。

人件費、扶助費、公債費のいわゆる義務的経費と、道路橋梁の整備、学校や住宅の建設などの普通建設事業費、災害復旧事業費、失業対策事業費の投資的経費、およびその他の経費に分けられます。

目的別歳出

目的別歳出とは、入ったお金がどのように行政に使われたか、という分けかたです。

歳出総額三億九千四百三十三万九千九百の内訳を行政目的別に見ますと農林水産業費、総務費、土木費、ついで教育費などの順になっております。これをグラフで見ますとつぎのとおりです。



昭和四十七年度

上半期の状況

昭和四十七年度の当初予算について

ては、六月一日の「広報しんち特集号」でお知らせしましたが、その後九月末までに、町勢の発展をはかるための事業に必要な予算の補正が行なわれています。

昭和四十七年度当初の歳入歳出予算の総額は四億一千二十六万四千円でありましたが、その後の補正により二千百三十六万二千円が追加され、九月議会終了までの累計

額は四億三千五百八十八千円となりました。グラフは本年度九月末現在の予算の状況です。

予算と決算

九月末で四十七年度も上半期が経過いたしました。予算に計上されているおもな事業は全部着手され早期完成をめざして全力をあげております。

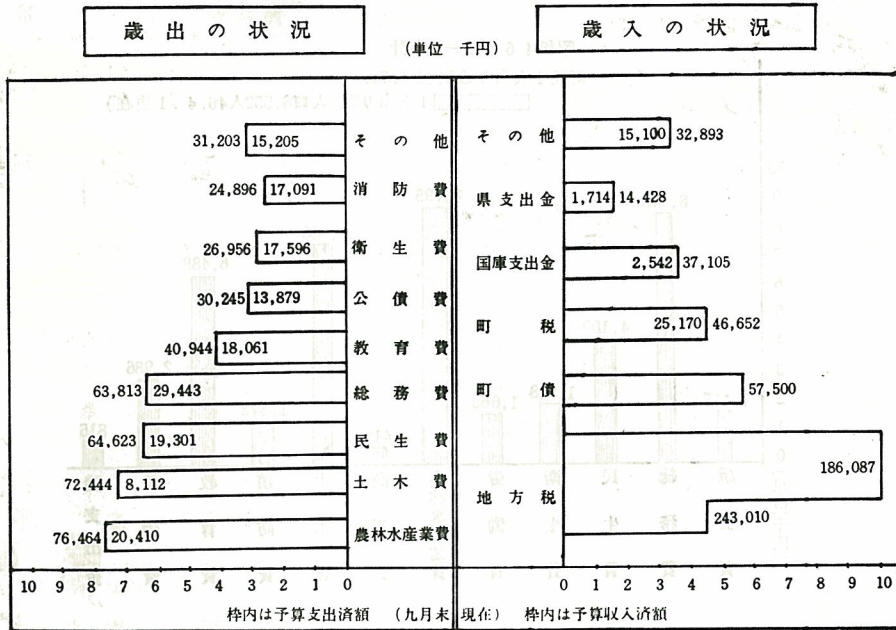
さて町民の皆さんには予算とか決算とかいいますと、何んとなくとつきにくいことのように思われがちですが、これは町民の皆さんにとって非常に大切なことなのです。

わかりやすくいいますと、ご家庭の「家計簿」と同じようなもので、その決算は一年間おこなわれた町の行政の成績書であり、経費の精算書でもあるわけです。

予算については町の政治あるいは行政の設計書ともいうべきものでいかなる行政もすべてこれによって動いているのです。

予算を編成する場合に大切なことは、皆さんの納めている税金など限られた財源をいかに有効適切に使うかということです。

皆さんも町の「家計簿」を、お家のかたがたで話しあってみましょう。



今年のおもなる建設事業 (単位千円)

事業名	事業費	事業名	事業費
1 新地地区たん水防除事業	6,950	9 県道整備事業負担金	3,325
2 公営住宅建設事業	26,883	10 農免道路整備負担金	1,333
3 菅谷今神線道路改良事業	24,000	11 失業対策事業	8,683
4 釣師浜漁港修築事業	20,000	12 工業用地取得事業	3,546
5 真弓飲料水供給施設整備事業	5,800	13 地籍調査事業	4,790
6 老人憩の家建築事業	23,120	14 農業基盤整備事業	7,527
7 廃通関連(旧国道)町道舗装事業	3,100	15 (47年度分) 農業後継者センター建築事業	4,470
8 消防施設整備事業	1,100		